

J R 阪和線ぶらり散策

KMテクノソリューションズ 代表 南側晃一

1.はじめに

今回は、私の最寄り駅である J R 阪和線「鳳駅」を中心として、その沿線にある施設についてご紹介する。

2. J R 阪和線の概要

1922 年、京阪電気鉄道は和歌山への進出を目論み、大阪～和歌山間の南海鉄道「南海本線」と平行する新しい高速電気鉄道の建設計画に参入した。京阪電気鉄道の正式な参加は、建設計画が本格的に具体化した 1926 年 4 月 24 日以後のことである。建設当初は、新京阪線同様の規格で高速運転に有利な 1,435mm 軌間での建設を考えていたが、鉄道省が「将来の国家買収」を視野に入れて国鉄と同じ 1,067mm 軌間で建設することを条件とした。また、「国鉄線との連絡」という条件も付加されたため大阪側起点用地の確保は困難をきわめ、最終的に当時大阪鉄道（後の近鉄南大阪線の前身）が所有していた国鉄天王寺駅東側の台地上に確保することになった。だが、この起点決定により阪和電気鉄道線には鉄道省城東線、関西本線、大阪鉄道本線、南海平野線の 4 つの既存鉄軌道を立体交差する必要が生じることになり、約 2.7km の区間において高架構造の採用を強いられた。この高架橋は大正時代末期以降日本でも採用例が見られるようになった鉄筋コンクリート製で、八角形の断面を持つ橋脚を一部に採用するなど特徴的な意匠を備えた。1929 年 7 月 18 日、天王寺～和泉府中と鳳～東羽衣で部分開業。翌 1930 年 6 月 16 日、天王寺～和歌山を全線開業した。1940 年 12 月 1 日、南海鉄道に吸収合併され南海山手線として営業。1944 年 5 月 1 日、南海山手線が国有化され国鉄阪和線となり、1987 年 4 月 1 日、国鉄分割民営化により現在の J R 阪和線となる。

3. 鳳駅周辺

3.1 複合商業施設「アリオ鳳」

都市再生特別措置法に基づく都市再生緊急整備地域に指定された「堺鳳駅南地域」におけるまちづくり政策の一環として、東急車輛製造大阪製造所跡地の再開発事業により、2008 年 3 月 31 日にグランドオープンした。地上 5 階地下 1 階の店舗にはイトーヨーカドーを核店舗に、TOHO シネマズ鳳を始めとする 153 の専門店が出店している。店舗面積 40,000m²、駐車場収容台数 2,500 台は、堺市内ではイオンモール堺北花田に次ぐ規模となる。

LED 照明の一部採用やヒートポンプ式エアコンの導入など環境負荷の低減に配慮した建物



となっている。周辺では再開発事業の一環としてマンション、防災公園（鳳公園）などの整備も進められている。



J R 鳳駅



買い物客で賑わうアリオ鳳店内



鳳公園から見た「アリオ鳳（左）」とマンション「サウスオールシティ（右）」

3.2 防災公園としての鳳公園

2002年7月に都市再生緊急整備地域に指定された鳳駅南地区は、大規模工場跡地の土地利用転換による都市機能の集積とあわせて、周辺市街地の整備を図り、防災性に配慮した生活、交流拠点の形成を目指したまちづくりが進められた。鳳公園は大規模工場跡地の一角に面積約2万平方メートルの防災機能を有した近隣公園として2006年4月に開設され、2007年度からは地元自治会が中心となって組織した「NPO 法人クリーン鳳」が維持管理を行っている。また災害時に備えて、公園に設置された災害用トイレの組み立てや遊具を利用した災害テントの設営など、防災施設を活かすための防災訓練にも力を入れている。



災害時には付属テントを使って避難施設として利用できる。



災害時には避難者の生活用水を地下の貯水槽より手動でくみ上げる。

4 富木駅周辺

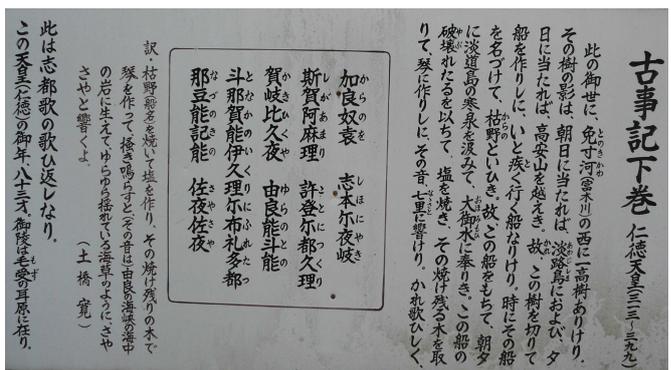
4.1 等乃伎神社（とのぎじんじゃ）

鳳駅から各駅停車で和歌山方面にひと駅行くと富木駅がある。改札を出て東方向に5分程歩くと、等乃伎神社に着く。

富木というのは、古事記にも記載がある古い地名で、「殿来連（とのきのむらじ）」という氏族が住んでいたことに由来する。古事記では、「仁徳天皇の時代、兔寸川（とのきがわ、現在も富木川として存在）の西岸に巨木があった」とある。朝日を受ければ影が淡路島に届き、夕日を受ければ影が高安山を超えるほどの巨木。この木を伐って船を作ると素晴らしい快速船ができあがり、「枯野」と名付けられて淡路島から天皇の使う水を運んだ。さらに、枯野に穴が開いてももう船には使えなくなると、木材にして火を起こして塩を焼いた。そして焼け残りから琴を作ると、その音は七里に響き渡ったという。



等乃伎神社



等乃伎神社に掲示されている「古事記下巻」

5.信太山駅周辺

5.1 池上曽根史跡

富木駅から各駅停車で和歌山方面に2駅行くと信太山駅がある。改札を出て西側に約5分歩くと、池上曽根遺跡に着く。

南北1.5キロメートル、東西0.6キロメートルの範囲に広がる池上曽根遺跡は、総面積60万平方メートルもの規模をもつ大遺跡である。

弥生時代の全期間(2300~1800年前)を通じて営まれた、わが国屈指の環濠集落（周囲を溝で囲んだ集落）と言われている。大型建物は東西19.2メートル、南



陸上自衛隊

陸上自衛隊
信太山駐屯地

北 6.9 メートル、面積 133 平方メートルと、弥生時代最大級の規模をもつ建物で、地面に掘った穴に直接柱を立てた掘立柱建物と呼ばれるもので、26 本の柱で構成されている。直径 60 センチメートルもある当時の柱の根元が腐らずに 17 本も残されていた。大型建物は壁のない高床建物で、屋根裏が二階になった屋根倉形式といわれる形で復元。近くで見つかった土器に描かれていた弥生時代の建物の絵をもとに、全体の形が決められた。約 80 畳の広さがあり、高さは 11m もある。



いずみの高殿

建物の復元には、和泉市父鬼町の三国山で伐切された 50 本のヒノキを使っている。復元完成にあたり全国から愛称を募集したところ、5,000 通をこえる応募があり、建物は「いずみの高殿」と命名された。

5.2 陸上自衛隊信太山駐屯地

信太山駐屯地は、旧陸軍野砲兵第四聯隊が大正 8 年 11 月に大阪法円坂から移駐したもので、大阪・和歌山の郷土部隊として創設された。昭和 20 年の終戦後、米軍の調理学校・海兵隊の士官養成学校が一時駐留し、自衛隊の前身である警察予備隊、保安隊も共同で使用していた。昭和 32 年、信太山駐屯地が日本政府に返還後、昭和 32 年 9 月に陸上自衛隊の駐屯地として再び創設された。

後醍醐天皇への忠誠を貫いた楠正成公の忠誠心と、菊水連隊として称せられた旧陸軍三七聯隊の精神を引き継ぎ、楠木公の家紋である菊水を部隊のトレードマークとしている。

駐屯地資料館では、北白川宮成久王殿下が使用した建物の半分を「歴史を学び修める」ための“修史館”として、旧軍資料や書物、軍服、装具及び 14 世紀南朝に仕えた勤皇の土、楠正成公ゆかりの建水分神社（大阪府南河内郡千早赤阪村）に納められていた奉納刀等、貴重な資料や物品が保管・展示されている。



駐屯地資料館の外観



駐屯地資料館の内部

以上